

a 学校教育目標	夢と志をもち、たくましく生きる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に愛される学校～安心して学べる学校・挨拶が溢れる学校・成果を生み出す学校～
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方針	I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	確かな学力の向上を図る。 ○活用力の育成を図る。	◎基礎・基本の定着を図る。 ○朝学習・確かめ学習の時間に、診断的評価を活かしたフォローアップテスト・ドリル学習等繰り返し学習を徹底する。 ○国語辞典の活用計画を立て実施する。	○テスト(国語・算数)の平均75点以上の児童を75%(最終80%)以上にする。  ○「基礎・基本」定着状況調査における学校平均通過率を県平均以上にする。  ○標準学力調査において校内平均正答率が全国平均を上回るようにする。  ○国語辞典による語句 1年生30, 2年生30(60), 3年生100(200), 4年生250(400), 5年生300(500), 6年生360(600)以上調べる。(1年生は単語の並び替え学習)	100%  100%  100%  80%	国語 82.8% 算数 82.8% 国語 119% 算数 110%	国語 87.1% 算数 85.7%	国語 108% 算数 107% 国語 119% 算数 110%	A  A  B  A	○テストの平均80点以上の児童の割合は、国語87.1%、算数85.7%という達成値であった。国語では、長文読解や言語理解、算数では考える力に課題がある。 ○「基礎・基本」定着状況調査における学校平均通過率は県平均を大きく上回っている。 ○「標準学力調査」における学校平均通過率は国語は、本校74.8%、全国平均76.1%で、全国平均を下回っている。読む力に課題があった。 算数は、本校75.4%、全国平均72.5%で、全国平均を上回っている。文章の中から必要な情報を取り出す力に課題があった。1教科40分間で全問解くことができない児童もいた。 ○1～2年生は辞書引きの基礎となる学習を前期で繰り返し行ったので、後期になると辞書の引き方が上手にできるようになった。3～6年生は同音異義語も一緒に確かめたりわからない言葉があるとすぐ調べようとする姿が多く見られたりした。また、新出漢字を使う熟語を調べさせることにより「漢字を使う力」が付き、語彙を増やすことができた。	・全体的に力についてはきているが、課題がある単元については、朝学習、たしかめ学習の時間を活用し、復習をする。 ・各学年で系統的につまずきに対する指導を行っていくようにする。 ・国語は、主述の関係や場面の様子を読み取り方等、様々な問題を解く経験をさせる必要がある。算数は、四則計算の演算の決定をする力を育てるとともに、図をかいて考え、説明させるように指導を続けていく。また、問題を解くスピードもつける必要がある。 ・個人差が大きく、時間がかかる児童もいるので、辞書引きの時間に個別に指導していく。また、調べた言葉を使って、文を書かせたり、日常的に辞書引きをして確かめさせたりして、調べた言葉が理解できるようにする。	5/5			○船木小学校の先生は非常に熱心であり良い先生が多い。学力をつけるために努力をしていることが分かる。 ○改善方針について統合3校で連携し、継続して取り組んでほしい。
豊かな心の育成	自然・人などの関わりを通して豊かな人間性を培う。	◎郷土や母校への誇りと愛着の育成を図る。  ○「いじめ」の発生件数をゼロにする。 ○「挨拶」「返事」「靴そろえ」の定着を図る。	○地域の方々と関わりを持つ取組を2回実施することのできた学年100%。  ○「いじめ」の発生件数0 ○「あいさつ」「返事」「靴揃え」ができる子ども85%(最終90%)以上にする。	100%  100%  90%	100%  100%  98%	100.0%  0%  100.0%	100.0%  0%  100.0%	A  C  A	○地域の方々に多大な協力をいただき、実りのある地域との関わりを持つことができた。 ○学級内での友だちの発言に傷つき登校できなかったり遅れて登校してきた児童が1名いた。それを「いじめ」としてとらえ、複数対応で指導にあたり、家庭との連携を取った。それによって、登校できるようになった。しかし、日常の指導において学級内の問題を把握し、迅速な指導を進める点において、課題が残った。 ○あいさつ、返事、靴揃えの児童アンケートの結果から、いずれも90%以上の児童がだいたいできていると自己評価していた。児童会がポスター作りや児童会目標に設定することによって児童の意識を高めることができた。	・学校統合後も、地域との関わりがもてる取組を継続していく。 ・いじめを許さない学級づくりについての研修を深めるとともに、学校として組織的に問題行動に取り組む体制づくりを進めていく必要がある。  ・継続的に「あいさつ」「返事」「靴揃え」の必要性を児童に指導するとともに、家庭への啓発を進めていく。	5/5			○返事がとてもよく気持ちが良い。 ○いじめについては、子供の声をしっかりきいてみる大切であると考える。
健やかな体の育成	健やかな体づくりを推進する。	○体力・運動能力の向上を図る。	○新体力テストを踏まえ、自己の目標を設定し瞬発力・敏捷性・持久力向上のための運動を推進する。 ○瞬発力・敏捷性・持久力のための準備体操を考案する。	75%  100%	80%  100%	100.0%  100.0%	100.0%  100.0%	A  A	○2種目とも、新体力テスト実施時より記録が伸びた児童の割合を80%以上とすることができた。体育科の学習において指導工夫を行い、継続的に運動に取り組むことにより効果をあげることができた。しかし、学年によっては伸び率が低い学年もあった。  ○サーキットトレーニングは全学年とも100%の実施率を達成した。また、体育朝会で全校児童が参加してサーキットトレーニングを行った。	・学校統合後、体育科の研修を継続していくとともに、児童の運動能力分析し、体力づくりを進めていく。  ・学校統合後、新体力テストなどの結果を分析し、新たなサーキットトレーニングの開発をする。	5/5			○体育朝会などの取組によって、最近体力が向上していると思う。 ○日常生活に体力向上の取組を取り入れ、継続することが大切である。
信頼される学校	保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○情報を公開し、学校に対する理解度・信頼度を高める。	○ホームページや学校だより・学級通信で定期的、積極的に情報を発信する。 ○年間3回学校関係者評価を実施し、客観的な評価と改善をする。 ○服務研修を月1回以上実施する。	90% 90%  100%	95% 100%  100%	98.7% 100%  100.0%	109.7% 111%  100.0%	A  A	○ホームページの更新、学校だよりの月1回の発行はできた。学級だよりの月1回の発行については、達成率が98.8%であった。学級だよりでは、児童の学ぶ姿や成長ぶりを伝える内容に加え、学校での取組や学級懇談会の内容報告など、学校と家庭が共通認識をもって取り組めるような啓発的な内容が増え、内容的に高まった。 ○服務研修については、計画に基づき、月1回以上実施することができた。低・中・高学年ブロックの担当が資料等を準備して、工夫して服務研修の企画運営を行った。	・今後も情報交換を行い、他学級の取組のよきから学んで取組に活かしていく。  ・今後も担当が工夫して企画・運営を行い、服務研修の充実を図る。	5/5			○保護者アンケートの結果から、「船木小学校へわが子を通わせてよかった」や「地域を愛する子どもを育てている」という項目が9月と比べて上がっているのは、学校の取組が評価されているからだと思う。

【j:自己評価 評価】  
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100  
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。

本年度の重点目標については◎印で示す。